

第3節 病棟

1 第1病棟

<病棟機能>

- 精神科急性期治療病棟入院料1算定可能な急性期病棟である。
- 主に急性期の集中的な治療を要する精神疾患患者を対象に、修正型電気けいれん療法を目的とした患者等を受け入れている。
- 感染症（結核・新型コロナウイルス感染症等）を合併した患者を治療する専用病室を備えている。

<病床数>

保護室	6床
個室	12床
2床室	4床
4床室	8床
計	30床

<スタッフ>

医師	2人（兼務1人）
看護師	22人
精神保健福祉士	2人（兼務1人）
公認心理師	1人（兼務1人）
作業療法士	1人（兼務1人）

<活動報告>

プログラム	内容	開催	回数	患者数	スタッフ
患者ミーティング (ふれあいの会)	入院集団精神療法 他者（他患者・病院スタッフ）との交流を通し、 対人関係を学ぶことを目的としている。	月2回	20	89	74
レクリエーション	精神科作業療法 変化の少ない入院生活において、季節の行事や調 理 OT 等を行い入院生活の楽しみ、気分転換の機 会にもなっている。	月2回	20	84	44

<まとめ>

令和4年度は感染症専用病床で COVID-19 陽性患者を 31 名受け入れた。また、修正型電気けいれん療法を 95 件施行し、合併症割合は全体の約 2.42%であった。

上半期は、精神病棟入院基本料 13 対 1 としての基準を遵守できるように、多職種連携と情報共有を推進した。下半期は、精神科急性期治療病棟入院料 1 の算定に変更となり、家族を含めた生活支援を視野に入れた退院支援をチームで実践している。以下に、令和4年度の取り組み状況を述べる。

1 救急病棟の後方支援病棟としての役割と他病棟からの患者受け入れ

当病棟は救急病棟(第6病棟)の後方支援としての役割を果たす必要がある。今年度は、COVID-19 陽性患者を受け入れつつ、第6病棟から 25 名の患者を受け入れた。病床利用率は 69.1%と前年度より上昇し、病棟状況に応じた転出入は多職種連携のもとスムーズに行えた。

2 安全な病棟運営

昨年度に引き続き、COVID-19 陽性患者の受け入れに伴う感染対策を徹底し、病棟内二次感染の発生はなかった。転倒・転落は30件の事象があり、年齢に関係なく発生しており、転倒リスク評価の方法やタイミング、予防対策を検討した。

2 第2病棟

<病棟機能>

- アルコール依存症・薬物依存症・ギャンブル依存症等の治療を行う専門病棟である。
- 依存症治療の動機づけや断酒・断薬を継続するための集団プログラムの実施、自助グループやリハビリテーション施設のプログラムの活用により、回復のための援助を行う。

<病床数>

保護室	4床
個室	4床
2床室	12床
4床室	20床
計	40床

<スタッフ>

医師	2人
看護師	20人
精神保健福祉士	1人
公認心理師	2人（兼務1人）
作業療法士	1人

<活動報告>

プログラム	回数(回)	参加人数(人)			
		患者	医師	看護師	療養援助
レクリエーション	75	852	2	127	4
スマイルイベント	12	170	1	20	25
ダルクメッセージ	10	107	0	11	0
フリッカメッセージ	4	10	0	4	0
マックメッセージ	17	208	0	17	0
作業療法	29	379	0	40	31
ウォーキング	9	70	3	18	2
ヨガ・瞑想	27	258	0	28	26
SGM	30	445	26	51	29
CST（再発予防プログラム）	48	642	46	97	53
勉強会	50	756	48	52	46
断酒会メッセージ	13	154	0	14	0
AAメッセージ	26	321	0	26	1
NAメッセージ	6	61	0	6	0
残棟プログラム	6	76	0	6	0
集団栄養指導	6	92	0	6	3
酒歴・薬歴発表	18	264	18	26	20

プログラム	回数(回)	参加人数(人)			
		患者	医師	看護師	療養援助
AA 参加 (下落合)	0	0	0	0	0
DVD 鑑賞	15	135	0	15	0
テキストミーティング	34	498	1	37	20
スタッフ合同ミーティング	14	179	0	17	16
年末ミーティング	4	54	0	5	0
ニューイヤーミーティング	2	27	0	3	0

<まとめ>

1 病床利用状況

病床利用率は 70.0%の目標に対し、69.8%であり目標値に近い数値であった。これは、今年度経営への具体的参画として病床利用率の向上を病棟目標に掲げ、緊急入院と他病棟からの転入（5,6 病棟の後方病棟として依存症患者以外の受け入れも積極的に行う）を柔軟に受け入れたことが主な要因であると考えられる。

2 実践力の強化

行動制限最小化の推進として、「保護室の安全な物品管理に関する基準作成」に取り組んだ。病院マニュアルを基本に病棟スタッフの意見を取り入れて 2 病棟としてマニュアルを作成した。令和 4 年 11 月以降運用を開始し、インシデントの発生はなく経過している。

3 コロナ禍におけるプログラムの実施

今年度も昨年度同様に COVID-19 感染拡大防止のため、自助グループや中間施設のメッセージ等、院外の講師を招いてのプログラムはオンラインで実施した。院外への自助グループや中間施設のメッセージ参加は実施しなかったが、退院前訪問を含むスタッフ同伴外出は、感染対策を講じながら多職種で連携し積極的に実施した。

3 第5病棟

<病棟機能>

- 児童・思春期の精神疾患患者の治療を行う専門病棟である。
- 埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校を併設している。
- 医療・教育・保健・福祉などの各機関と連携し、治療の継続を図っている。

<病床数>

保護室	3床
個室	27床
2床室	-
4床室	-
計	30床

<スタッフ>

医師	4人
看護師	22人
精神保健福祉士	1人
公認心理師	3人
作業療法士	1人

<活動報告>

(1) 病棟ミーティング

病棟に関わる全ての人達の間で双方向性のコミュニケーションを促進すること、病棟の子どもたちに起きている関係性や力動を理解し受け入れることを目的に週1回水曜日に実施している。コンダクターは医師、コ・コンダクターは看護師または療養援助部職員が行っている。

(2) レクリエーション

週1回木曜日、患者が興味・関心をもって参加でき、季節を感じられるようなレクリエーションをOT・看護師が中心となり企画・運営している。レクリエーション活動を通じて、集団生活を体験することや仲間作りを目的としている。

(3) 家族教室

家族援助の一環として、情報提供と家族交流の場を提供することを目的としていたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により1クールの実施となった。

(4) グループ活動

対人関係のスキル・自主性の向上を目的とし、男女に分かれてグループ活動を実施している。

活動には医師・看護師・コメディカルが付き添い、週1回1時間の定例会で患児が企画した内容を実施している。社会性を育みルールを学ぶことを目的に、集団で公共施設を利用するなど病院外活動も取り入れている。

(5) ペアレントトレーニング

ゲームやインターネットに没頭して不登校や家庭内暴力に発展するといったトラブルが社会的な問題になっている。インターネットやゲームの使用をテーマに、行動嗜癖問題における家族支援の一環として企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、募集人数に達しなかったため開催されなかった。

(人)

プログラム	開催日	回数	患者	医師	看護師	療養援助
病棟ミーティング	毎週水曜日	44	459	40	53	89
レクリエーション	毎週木曜日	38	474	10	82	64
家族教室	土曜日	3	12	1	5	0
グループ活動	毎週月曜日	58	442	6	66	84
ペアレントトレーニング	金曜日	0	0	0	0	0

<まとめ>

- 1 病床利用率 87.3%であった。病棟運営会議にて入退院状況を確認し、ベッド調整を行うと共に、他病棟との連携を図り転入受け入れを行った。
- 2 新型コロナウイルス感染症の病棟内クラスターが発生した。感染状況に応じた入院制限、面会制限、感染症発生時の対応を行うと共に、感染防止対策強化に取り組んだ。
- 3 埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校との情報交換会を毎月1回開催し、学校との情報共有を図った。また、毎月の学校病棟連絡会では、学校と病棟との連携を図った。

4 第6病棟

<病棟機能>

- 精神科救急急性期医療入院料算定の認可を受け、夜間・休日の緊急入院を中心に埼玉県精神科救急医療体制整備事業を補完する病棟である。
- 医療観察法の鑑定入院・特例1・特例2を受け入れている。
- 早期退院に向けてチーム医療を行い、地域への医療の継続性を図る。

<病床数>

保護室	20床
個室	30床
2床室	-
4床室	-
計	50床

<スタッフ>

医師	9人
看護師	34人
精神保健福祉士	3人
公認心理師	1人
作業療法士	1人

<活動報告>

(1) 服薬SST

病気と薬の作用についての情報を提供し、入院前の精神状態を現状と比べながら振り返ることで、アドヒアランスの向上を目指す。

(2) 病棟懇談会

集団内の対人関係の相互作用を用いて、対人場面での不安や葛藤の除去、患者自身の精神症状・問題行動に関する自己洞察の深化、対人関係技術の習得をもたらして症状の改善を図る。

(3) レクリエーション

レクリエーション活動を行い、他患者・スタッフとの交流を通して対人関係を学ぶ。

プログラム	開催日	回数	患者	医師	看護師	療養援助	参加合計
服薬SST	毎週火曜日	24	35	0	47	0	82
病棟懇談会	第1・3木曜日	46	105	105	20	24	254
レクリエーション	第2・4木曜日	21	162	0	27	32	221

<まとめ>

- 1 病床利用率は昨年度より上昇し 82.7%だった。安定した病床利用率を確保できるよう感染対策を徹底しながら他病棟と連携し入院を受け入れていく。

- 2 病棟懇談会やレクリエーション、服薬SSTは、密を避ける事やマスク着用の徹底等の感染対策を強化した上で開催した。

- 3 緊急入院を常時受け入れる体制の維持に関しては、病棟運営会議や病棟間調整会議の際に 6 病棟の病床利用状況を共有し、他病棟への転棟の検討を行った。主に 1 病棟との連携を強化し、6 病棟の保護室利用状況によってタイムリーな転出入を図った。また、プライマリーナースが退院支援委員会に確実に出席できるよう多職種と連携して調整し、プライマリーナースの出席率は 100%を達成した。計画的な退院支援につながるよう看護に反映することが課題である。

5 第7病棟

<病棟機能>

- 医療観察法の対象者に入院医療を行う専門病棟である。

<病床数>

保護室	2床
個室	31床
2床室	-
4床室	-
計	33床

<スタッフ>

医師	4人 (兼務1人)
看護師	43人
精神保健福祉士	3人
公認心理師	2人
作業療法士	2人

<活動報告>

	プログラム	内容	回数 (回)	参加人数(人)				
				対象者	医師	看護師	療養援助	その他
ミー ティ ン グ 系	全体ミーティング	集団の場に慣れると共に、対象者全員とスタッフによる話し合いを行う。	15	387	11	152	58	0
	朝の会	生活リズムを整え、自分自身の病状、体調、気分、意欲を確認するため、各ユニットで毎朝各自の報告が行われる。	218	5903	0	1807	879	0
	ユニットミーティング	対象者同士の信頼関係づくりやコミュニケーション能力等の向上のため、ユニット内で生活上の問題やルールを話し合う。	34	870	0	277	149	0
看護 心理 教育	サクラソウ	治療の導入を円滑にする。	50	50	16	66	30	0
	ケヤキ	疾病理解を促し、服薬に対するアドヒアランスを向上させ、集団での協調性を養う。	50	86	10	63	9	3
	シラコバト	再発を予防し、生活能力を再獲得することを目的に行われる。	4	8	0	64	8	0
認知 行動 療法 ・ スキル 獲得 系	SST	日常生活技能獲得・対人交流技術向上を目的に対人関係場面の練習等を行う。	16	55	0	30	17	0
	WRAP 元気回復行動プラン	グループ体験を通して、自らに備わっているリカバリーする力を引き出すと共に、お互いにリカバリーしている事を感じる場。	31	370	0	101	30	10
	物質使用障害	再使用予防の方策を、講義や互いの体験の話し合いから考える。自助グループへの導入目的で行われている。	12	24	0	24	0	0
	AAメッセージ	再飲酒予防のために、互いの体験や希望を分かち合う集まり。他者の体験を聞き・自らの思いを語る場。	0	0	0	0	0	0
その 他	看護面接	治療関係の構築、評価のための情報収集、治療の般化を促す。また内省深化を図る等の目的で行う。	381	381	3	399	6	0
	レクリエーション	6月 映画鑑賞 12月 クリスマス 10月 映画鑑賞 3月 映画鑑賞	3	64	0	13	8	0

<まとめ>

- 1 病床利用率は95.6%であり、目標の97.0%を下回る事となったが、前年度比では2.9ポイント向上している。年間を通じて埼玉県内に鑑定入院の患者がおり、他県での医療観察法入院処遇となることもあった。しかし、情報交換を行うことで、他県からの転院を積極的に受け入れた。長期入院対象者の退院に働きかけた結果、3年以上入院している対象者が4名となり、平均在院日数は1年1か月と前年度より減少している。
- 2 心理教育プログラムは集団介入だけではなく、個別介入を取り入れることで、対象者に合わせたプログラム内容となった。
- 3 新型コロナウイルスによるクラスター発生のため、各種プログラムを中止する期間があったが、担当者によるプログラム開催を計画通りに行うことで、プログラム内容の充実を図り、対象者への支援を行った。